

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	八戸工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	産業システム工学科機械システムデザインコース	夜・通信		5	3	8	7	
	産業システム工学科電気情報工学コース	夜・通信			4	9	7	
	産業システム工学科マテリアル・バイオ工学コース	夜・通信			2	7	7	
	産業システム工学科環境都市・建築デザインコース	夜・通信			8	13	7	
	(専攻科) 産業システム工学専攻機械システムデザインコース	夜・通信		11	0	11	7	
	(専攻科) 産業システム工学専攻電気情報システム工学コース	夜・通信			0	11	7	
	(専攻科) 産業システム工学専攻マテリアル・バイオ工学コース	夜・通信			0	11	7	
	(専攻科) 産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	夜・通信			0	11	7	

(備考)

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

WEB シラバスの各コースのページで公表している。

(例) 機械システムデザインコース

<https://syllabus.kosen->

[k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school\\_id=05&department\\_id=11&year=2020&lang=ja](https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=05&department_id=11&year=2020&lang=ja)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	八戸工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02\\_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20200401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20200401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大 学理事・副学長	2020年4月1日～ 2022年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月1日～ 2022年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	八戸工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本校では、教育課程の編成及び実施に関する方針の趣旨に沿い、国立高専機構の Web シラバスシステムを利用してシラバスを作成している。シラバスには、授業科目名、単位数、授業形態、対象学年、担当教員名、達成目標、教育目標等との関係、教育方法、教育内容、成績評価方法・基準、授業の区分(設置基準第17条関係)、及び教科書・参考文献の各項目を明示している。 シラバス作成の過程については、前年度の12月に担当係から全教員に校内メールで作成依頼の連絡を行い、授業担当教員が「シラバス作成要領：留意事項」に基づいて1月中旬頃までに Web シラバスシステムに入力することになっている。なお、内容が前年度から大幅に変更になった科目については、本校の教育プログラム点検・評価委員会から通知される「シラバス自己チェックリスト」に基づく自己点検結果を、1月末頃までに報告することになっている。 授業担当教員による Web シラバスへの入力後、点検・評価委員による点検が行われ、必要な修正が指示される。さらに教務委員による全体的な履修要領等に関する部分を作成し、前年度末までに完成させている。完成したシラバスは、新年度初日から本校ホームページで公表している。また各科目の初回授業時に、教員が印刷した当該科目のシラバスを学生に配布し、内容を周知している。	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/syllabus/index.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/syllabus/index.php</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目の成績評価は、試験やレポートなどを総合して各科目のシラバスに明示された方法・基準に基づき行っている。成績評価等の客観性・厳格性を担保するための組織的な措置として、答案を返却し、模範解答や採点基準の提示を行っている。成績評価の具体的な内容は、評価割合等を記載した成績一覧表を含む成績エビデンスとして過去3年分を保管しており、本校の教育プログラム点検・評価委員による抜き取り検査を実施している。各科目の成績評価結果は本校の教務事務システムに入力され、教務係で一覧表を作成して各学期に行われる成績会議に報告している。</p> <p>冬学期末には、当該年度に開講した全科目の最終成績が、担当教員により再度、教務事務システムに入力される。成績判定の正確を期すため、各科目の評価結果および欠課時数を判定会議前に学生本人に通知し、異議の申し立てを行う機会を設けている。</p> <p>異議申し立て期間を経て確定した総合成績を基に、成績判定会議において、「八戸工業高等専門学校学業成績評価及び学年の課程修了並びに卒業認定に関する規則」及び「八戸工業高等専門学校専攻科授業科目の履修等に関する規則」に規定する基準に基づき、各授業科目の成績評価並びに単位認定を厳格かつ適正に行っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、成績評価における客観的な指標として、「単位数重み付け平均点」を設定し、公表している。その内容は、「当該科目の評価点と単位数の積」を成績が評価された全科目について足し合わせ、成績が評価された全科目の「総単位数」で除した値である。すなわち、</p> $\text{単位数重み付け平均点} = \frac{(\text{当該科目の評価点} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の全科目総和}}{(\text{総単位数})}$ <p>その算出式及び方法は本校で利用している教務システムに組み込まれており、同指標とそれに基づくクラス内席次は、自動的に算出されて成績一覧表に表示されるようになっており、適切に実施している。</p> <p>添付資料「客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料」のとおり成績の分布状況の把握をしている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/syllabus/docs/2020/Syllabus-R2_1_01.pdf">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/syllabus/docs/2020/Syllabus-R2_1_01.pdf</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では、学校の目的及び準学士課程・専攻科課程の目的を踏まえ、卒業・修了の認定に関する方針を次のように定めて公表している。

**【準学士課程】**

**DP1. 豊かな人間性の涵養**

豊かな教養と幅広い視野を備え、地球環境や人類社会における科学・技術の重要性を理解できる。

**DP 2. 数学・自然科学・情報処理知識の修得**

数学、自然科学の基礎知識、及び応用数学、応用物理、情報処理に関する知識を身につけ、それらを問題解決に応用できる。

**DP 3. 専門知識の修得**

得意とする専門分野の知識と技術、及び他の専門分野の基礎知識を身につけ、課題解決に応用できる。

**DP 4. 課題発見力・探究心と協働性**

自ら課題を発見して探究する姿勢を持ち、協調性を発揮してチームの一員として仕事に取り組むことができる。

**DP 5. 地域社会への貢献**

地域の課題に関心を持ち、その解決に貢献しようとする姿勢を持つ。

**DP 6. 異文化理解とコミュニケーション能力**

異文化を理解する姿勢を持ち、討議・発表力と英語基礎力を身につけて研究発表等で活用できる。

**【専攻科課程】**

専攻科では、以下に示す能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定します。

**DP1. 地球環境と科学技術の重要性**

豊かな教養を基盤とし、学際的な視野を有し、地球環境と社会における科学・技術の重要性を理解できる。

**DP 2. 産業発展への寄与**

数学、物理、化学等の基礎知識、及び技術者としての高い倫理観を身につけ、広く産業の発展に寄与できる。

**DP 3. 専門分野・他分野の知識・技術と応用力**

得意とする専門分野の知識と技術、及び他の専門分野の応用知識を身につけ、課題解決に応用できる。

**DP 4. 地域課題への関心と課題解決能力**

地域課題に関心を持ち、自らが課題設定・解決能力を有し貢献することができる。

**DP 5. 異文化理解と討議・発表力・英語基礎力**

国際的な学術研究や異文化を理解する姿勢、及び討議・発表力と英語基礎力を身につけて特別研究等の各種発表等で活用できる。

また本校では、上記の卒業・修了認定方針に基づき「八戸工業高等専門学校学業成績評価及び学年の課程修了並びに卒業認定に関する規則」及び「八戸工業高等専門学校専攻科授業科目の履修等に関する規則」を定めており、学生の修得単位数等を踏まえて同規則に定める要件を満たした学生に対して卒業または修了を認定している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/three-policies.php>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	八戸工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf</a>
財産目録	
事業報告書	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: <a href="https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf</a>
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: <a href="https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf</a>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/disclosure/self-check-evaluate/index.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/disclosure/self-check-evaluate/index.php</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.niad.ac.jp/evaluation/certification_evaluation/specialized_specialty/koutou_hyokakekka/h30.html">https://www.niad.ac.jp/evaluation/certification_evaluation/specialized_specialty/koutou_hyokakekka/h30.html</a> <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/disclosure/self-evaluation-sheet/index.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/disclosure/self-evaluation-sheet/index.php</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 産業システム工学科
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/hachinohekosentoha.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/hachinohekosentoha.php</a> ) (概要) 本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 準学士課程は、教育基本法及び学校教育法に基づき、教養と工学専門分野の知識・技術を身につけるとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて自ら学ぶ姿勢を持ち、産業界のニーズに応えられる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。 専攻科課程は、準学士課程における学習を基礎にして、工学に関する高度な知識と技術を深く学習・研究し、幅広い視野と創造性を有して広く産業の発展に寄与し、課題設定・解決ができる高度な実践的・創造的技術者の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/three-policies.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/three-policies.php</a> ) (概要) 【準学士課程】 本校では、以下に示す能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 DP1. 豊かな人間性の涵養 豊かな教養と幅広い視野を備え、地球環境や人類社会における科学・技術の重要性を理解できる。 DP 2. 数学・自然科学・情報処理知識の修得 数学、自然科学の基礎知識、及び応用数学、応用物理、情報処理に関する知識を身につけ、それらを問題解決に応用できる。 DP 3. 専門知識の修得 得意とする専門分野の知識と技術、及び他の専門分野の基礎知識を身につけ、課題解決に応用できる。 DP 4. 課題発見力・探究心と協働性 自ら課題を発見して探究する姿勢を持ち、協調性を発揮してチームの一員として仕事に取り組むことができる。 DP 5. 地域社会への貢献 地域の課題に関心を持ち、その解決に貢献しようとする姿勢を持つ。 DP 6. 異文化理解とコミュニケーション能力 異文化を理解する姿勢を持ち、討議・発表力と英語基礎力を身につけて研究発表等で活用できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/three-policies.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/three-policies.php</a> ) (概要) 【準学士課程】 ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を育成するため、一般科目の学修と連携しつつ低学年から専門科目を少しずつ配置する「くさび型教育」の特長を活かし、知識と技術を体験的に身につけられるカリキュラムを編成します。学修の成果は、試験や課題レポートなど、各科目のシラバスに記載された評価方法により評価します。具体的なカ



<p>リキユラム編成方針は以下のとおりです。</p> <p>CP 1. 技術者として必要な教養と幅広い視野を身につけるため、国語、数学、英語、理科、社会、体育、芸術などの科目を、低学年を中心に開講する。</p> <p>CP 2. 専門科目の基礎となる数学、自然科学の基礎知識を身につけるため、応用数学、応用物理、情報処理に関する科目を開講する。</p> <p>CP 3. 得意とする専門分野の知識と技術を身につけるため、専門基礎及び応用科目の講義と、実験、実習などの体験的授業を有機的に組み合わせたカリキュラムを編成する。さらに、それらを課題解決に応用する能力を育成するため、高学年において創成科目や卒業研究を開講する。</p> <p>CP 4. 自ら課題を発見し、自立的に探究する姿勢を身につけるため、1学年から5学年に自主探究を実施する。またチーム内での役割を自覚し、協調性を持って仕事に取り組む姿勢を身につけるため、各種の実験・実習や創成科目、卒業研究などにおいて、協働で取り組む内容を設ける。</p> <p>CP 5. 地域の課題に関心を深めるため、地域志向科目を設ける。また地域の課題をテーマとする自主探究や卒業研究などを奨励する。</p> <p>CP 6. 討議発表力、異文化理解力を身につけるためにコミュニケーション、英語コミュニケーションなどの科目を開講するとともに、短期海外研修などの機会を設ける。またそれらを活用できる能力を身につけるため、全学年で自主探究のポスター発表を実施するほか卒業研究の英語発表を奨励する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：  <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/admissionpolicy.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/admissionpolicy.php</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>【準学士課程】</p> <p>AP1. 他人への思いやりができ、責任ある行動がとれる人</p> <p>AP2. 数学・理科や英語の基礎的な知識を身につけ、主体的に学習する意欲がある人</p> <p>AP3. 「ものづくり」や「科学・技術」に興味をもち、知的探究心をもって思考しようとする人</p> <p>AP4. チームで協力し、技術を通して社会に貢献する夢がある人</p> <p>AP5. 多様な人々と積極的に対話し、自分の意見や考えを表現できる人</p>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 専攻科 産業システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的          （公表方法：  <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/hachinohekosentoha.php#objective">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/hachinohekosentoha.php#objective</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p> <p>専攻科課程は、準学士課程における学習を基礎にして、工学に関する高度な知識と技術を深く学習・研究し、幅広い視野と創造性を有して広く産業の発展に寄与し、課題設定・解決ができる高度な実践的・創造的技術者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：  <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/three-policies.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/three-policies.php</a>）</p>

<p>(概要)</p> <p><b>【専攻科課程】</b>  専攻科では、以下に示す能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定します。</p> <p>DP1. 地球環境と科学技術の重要性  豊かな教養を基盤とし、学際的な視野を有し、地球環境と社会における科学・技術の重要性を理解できる。</p> <p>DP 2. 産業発展への寄与  数学、物理、化学等の基礎知識、及び技術者としての高い倫理観を身につけ、広く産業の発展に寄与できる。</p> <p>DP 3. 専門分野・他分野の知識・技術と応用力  得意とする専門分野の知識と技術、及び他の専門分野の応用知識を身につけ、課題解決に応用できる。</p> <p>DP 4. 地域課題への関心と課題解決能力  地域課題に関心を持ち、自らが課題設定・解決能力を有し貢献することができる。</p> <p>DP 5. 異文化理解と討議・発表力・英語基礎力  国際的な学術研究や異文化を理解する姿勢、及び討議・発表力と英語基礎力を身につけて特別研究等の各種発表等で活用できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/three-policies.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/three-policies.php</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【専攻科課程】</b>  ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を育成するため、一般科目、専攻共通科目そして専攻専門科目の3種類を設定して高度な知識を体系的に身につけられるカリキュラムを編成します。学修の成果は、試験や課題レポートなど、各科目のシラバスに記載された評価方法により評価します。具体的なカリキュラム編成方針は以下のとおりです。</p> <p>CP 1. 学際的な視野と技術者としての素養を身につけるため、情報工学、環境エネルギー工学、日本文化史概論などの科目を開講する。</p> <p>CP 2. 横断的な共通知識の深化と技術者としての高い倫理観を身につけるため、応用数学、物理学要論、化学要論、技術者倫理などの科目を開講する。</p> <p>CP 3. 得意とする専門分野の知識と技術を深化させるため、応用科目の講義と実験などの体験的授業を組み合わせたカリキュラムを編成する。また、課題設定・解決能力を育成するため、特別研究を実施する。</p> <p>CP 4. 地域の課題に関心を深めるためにエンジニアリングデザイン、学外研修などの科目を設け、履修を奨励する。</p> <p>CP 5. 国際的な発表・討議力、異文化理解力を身につけるために総合英語などの科目を開講するとともに、最大半年間の海外研修などの機会を設ける。またそれらを活用できる能力を身につけるため、特別研究の発表会では英語発表を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：  <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/admissionpolicy.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/admissionpolicy.php</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【専攻科課程】</b>  AP1. 社会における科学技術の重要性を理解し、その問題に関心を持つ人  AP2. 専門分野のみならず、他分野の基礎的知識をも習得して多角的視野を持つとする人  AP3. 「ものづくり」に関心を持ち、創造力と開発能力を身につけようとする人  AP4. 地域の諸課題に関心を持ち、協働してその解決に取り組む意欲のある人</p>

AP5. 国際社会に対応できる基礎的な言語能力を身につけ、多様な価値観を理解する意欲を有し、自らの見解を論ずる事のできる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/organization.php>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	8人	—					8人
産業システム工学科	—	9人	17人	9人	17人	0人	37人
総合科学教育科	—	6人	10人	6人	10人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		44人					44人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/organization.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/organization.php</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教員の能力向上を目的とする各種研修会への派遣を推進している。また、その成果を共有するためにFD発表会を継続して実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	人	人	%	人	1人	%	人	人
産業システム 工学科	160人	172人	107.5%	800人	834人	104.25%	人	15人
合計	160人	172人	107.5%	800人	835人	104.38%	人	15人
専攻科産業シ ステム工学専 攻	28人	23人	82.1%	56人	56人	100%	人	人
合計	28人	23人	82.1%	56人	56人	100%	人	人
(備考) 機械工学科は、平成27年度をもって学生募集を停止している。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	4人 (100%)	0人 (0%)	4人 (100%)	人 (0%)
電気情報工学 科	1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	人 (0%)
物質工学科	2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	人 (0%)
産業システム 工学科	137人 (100%)	52人 (38.0%)	85人 (62.0%)	人 (0%)

合計	144 人 (100%)	52 人 ( 36.1%)	92 人 ( 63.9%)	人 ( 0%)
専攻科産業システム工学専攻	27 人 (100%)	8 人 ( 29.6%)	18 人 ( 66.7%)	1 人 ( 3.7%)
合計	27 人 (100%)	8 人 ( 29.6%)	18 人 ( 66.7%)	1 人 ( 3.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
本校の教育課程は、教育課程の編成及び実施に関する方針の趣旨に沿って編成されており、各科目の開講学期と共に本校ホームページで公表している。各科目のシラバスは国立高専機構の Web シラバスシステムを利用して作成・公表しており、授業科目名、単位数、授業形態、対象学年、担当教員名、達成目標、教育目標等との関係、教育方法、毎回の授業ごとの教育内容、成績評価方法・基準、授業の区分（設置基準第 17 条関係）、及び教科書・参考文献の各項目を明示している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
授業科目の成績評価は、試験やレポートなどを総合して各科目のシラバスに明示された方法・基準に基づき行っている。各授業科目の単位認定及び卒業の認定は、学生本人による異議申し立ての機会を経て確定した総合成績を基に、「八戸工業高等専門学校学業成績評価及び学年の課程修了並びに卒業認定に関する規則」及び「八戸工業高等専門学校専攻科授業科目の履修等に関する規則」に規定する基準に基づき行っており、同基準の内容はホームページで公表している。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・ <input type="checkbox"/> 無	単位
	産業システム工学 科	167 単位	有・ <input type="checkbox"/> 無	単位
	専攻科産業システ ム工学専攻	62 単位	有・ <input type="checkbox"/> 無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.hachinohe-ct.ac.jp/facilities/index.php>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	産業システム工学科	234,600 円	84,600 円	約 174,500～ 342,680 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後援会入会金 (入学時) 6,000 円</li> <li>・後援会費 11,000 円</li> <li>(スポーツ振興センター共済掛金含む)</li> <li>・課外活動援助費 13,000 円</li> <li>・学生会入会金 (入学時) 1,000 円</li> <li>・学生会費 8,500 円</li> <li>・寄宿料 (寮生のみ) 8,400 円</li> <li>※国際寮・個室 9,600 円</li> <li>・学寮運営費 (寮生のみ) 105,500 円</li> <li>※国際寮 133,700 円</li> <li>・寮生会費 (寮生のみ) 3,000 円</li> <li>・教科書代 約 48,000～56,000 円</li> <li>・教材・作業服等 (入学時) 約 23,000～30,000 円</li> <li>・英語教材費 (3年生のみ) 5,280 円</li> <li>・辞書等 (入学時) 約 14,000～30,000 円</li> <li>・制服 (入学時) 約 50,000～65,000 円</li> </ul>
	専攻科産業システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	約 54,500～ 63,500 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後援会入会金 (入学時) 6,000 円</li> <li>・後援会費 11,000 円</li> <li>(スポーツ振興センター共済掛金含む)</li> <li>・課外活動援助費 13,000 円</li> <li>・学生会入会金 (入学時) 1,000 円</li> <li>・学生会費 8,500 円</li> <li>・教科書代 約 15,000～24,000 円</li> </ul>

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 高等学校等就学支援金、本校独自の奨学金を含む各種奨学金、授業料免除等に関する情報は本校ホームページで提供しており、学生係で支援体制を整備している。また高学年学生が個別に低学年生の学習指導を行う「学習支援メンター制度」に関する情報についてもホームページで提供しており、キャリア教育・支援センターが運営を担っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育・支援センターを整備し、キャリア教育に関する研修会・講演会の実施、進路指導用マニュアルの作成、進路指導ガイダンスの実施、進路指導室設置、進路先(企業)訪問、進学・就職に関する説明会、資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制として、学生相談室や保健センターの設置、相談員やカウンセラーの配置、ハラスメント等の相談体制、学生に対する相談の案内等を整備し、奨学金・授業料減免に係る体制も整備している。また厚生補導委員会に生活指導を主に担当する教員を配置している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/disclosure/educational-information/index.php">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/disclosure/educational-information/index.php</a>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数



	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。